

教育広報

いるま

第45号
平成19年3月

題字：教育長 石田 宣雄
編集：教育広報いるま編集委員会
発行：人間市教育委員会学校教育課
電話 04-2964-1111 (内4145)



今のこの時を

東町中学校 三年

吉田 渉

今、このかけがえのない仲間たちと一緒に居ること

笑い合えること

泣けること

同じ感情になれること

今までの一日一日が、かけがえのない大切な時間になっていくよ

いつかお互い別々の道を歩いていくんだ
なら

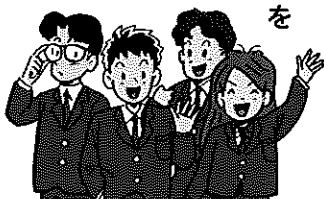
今のこの時を

くだらないことで笑い合ってる時を

真剣に悩みを相談し合ってる時を

もっと大切にしよう

もっと大切に



通学合宿



元気な入間っ子を育てる



入間市の公民館では、地域の中で子どもたちの生きる力を育み、生き生きと成長できるように、「通学合宿」に取り組んでいます。

数年前の試行を経て通学合宿は、平成十六年度から正式に始まりました。平成十八年度は、地区公民館十二館が、市内全小学校十六校の小学四年生から六年生を対象に実施しました。

今回は、その取り組み内容をご紹介します。

通学合宿の目的

通学合宿は、子どもたちが学校に通いながら、青少年活動センターや公民館に宿泊し共同生活をおくる体験学習です。

その目的は、子どもたちが異なる年齢や集団生活を通じて、規則正しい生活習慣を身に付けながら、働くことや協力し合うことの大切さを知ること及び地域ぐるみで子どもを育てる機運を醸

成することにあります。

実施概要

平成十八年度は、六月から十月にかけて十二地区での実施となりました。宿泊場所は、青少年活動センターが六地区、公民館が六地区でした。

参加してくれた子どもたちは、合計二百五十人で、男子百二十二人、女子百二十八人でした。

また、学年別では、四年生が九十九人、五年生が八十四人、六年生が六十七人でした。

通学合宿期間中は、テレビもゲームもなく、子どもたちは家族から離れ、友達との共同生活になります。実施にあたっては、地域の皆さんや大学生ボランティアの協力が大きな力となりました。

宿泊日数は五泊六日、または三泊四日で、宿泊場所によって、実施内容に違いがありました。

地域の協力

通学合宿には、多くの地域の皆さんの協力がありました。

子どもたちの夕食を作る食事ボランティア、子どもたちと一緒にゲームやスポーツを楽しむ地域交流ボランティア、公民館の宿泊のお風呂提供者、学校まで通学する際の安全指導ボランティアなど、地域の支援、協力により通学合宿が運営されました。

こうした取り組みが、地域で子どもを見守り育てることにつながります。

生活サポーター

子どもたちは、料理や清掃、お風呂、宿題など生活プログラムに沿って行動します。また、共同生活をする上でのルールも守らなければなりません。そのため通学合宿では、こうした子どもたちの生活をサポートし、指導する生活サポーターが必要

となります。

今回、地域の大妻女子大学や駿河台大学などに学生ボランティアをお願いしました。

全地区で三十九名の学生が参加し、子どもたちと一緒に宿泊しました。

また、大学生のほかにも、青少年相談員やボイスカウト、子どもたちの指導に経験豊かなボランティアの皆さんの協力もありました。

青少年活動センターに宿泊

―宮寺公民館二本木公民館―

宮寺・二本木地区通学合宿は六月十二日～十七日の間、入間市小谷田の青少年活動センターを会場に開催し、宮寺小学校、狭山小学校の四～六年生二十九人が参加しました。

《バス通学》
宿泊設備の整った青少年活動センターでは、多くの参加者を受け入れられるので、違う学校や学年の子どもたちが参加でき、ここで集団生活をおくりながら学校へ通いました。

登下校は市のバスで送迎を行

い、安全を確保しました。
《五泊六日間》

月曜の朝に登校した後は、土曜の昼まで家に戻りません。これだけ長く家族と離れて生活するのは初めての子ばかりです。テレビやゲーム機なども一切ありません。けれども子どもたちは、仲間と過ごすことが新鮮で楽しかったようです。それ自分のは自分でするとなると、時間が足りないくらいでした。



食事作り

《地域の協力》

子どもたちの食事づくりやレクリエーション、生活・健康管理を担当するサポーターとして、宮寺・二本木地区の延べ百五十名を超える方々が協力してくださいました。子どもたちは、いろいろなことを教わったり、一緒に楽しく遊んだり、たまには

叱られました。が、「地域で子どもを育てる」という熱い思いがあつてのことで、地域の方と交流を深める貴重な場となりました。

《お別れ会》

最後の夜に、お別れ会を行いました。ここでは通学合宿を支えてくれた方、仲間たちなど、全ての方々に感謝の気持ちを込めて、班ごとに前日から練習した出し物を披露しました。

十分な練習時間がなかったにも関わらず、歌や踊りや手話、劇や手品などが披露されました。空いた時間を見つけないが、協力して練習したのでしよう。笑いあり、感激して涙ぐむ場面もあり、みんなの親睦がさらに深まりました。



宮寺・二本木地区

通学合宿

お別れ会

公民館に宿泊

久保稲荷公民館

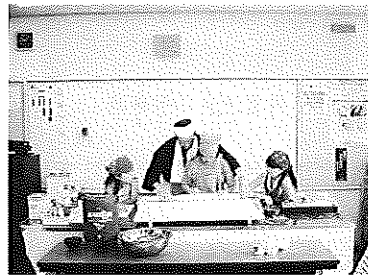
今年度の通学合宿は扇小学校の四年生から六年生の児童十六名で実施しました。昨年は、青少年活動センターでしたが、今年度は、子どもたちの生活範囲内にある久保稲荷公民館を宿舎として、三泊四日で行われました。

《子どもたちの食事作り》

昨年は朝夕のほとんどをボランティアの大人が作っていましたので、今年は食事のすべてを自分たちで考えて、自分たちの手で作ることにしました。朝夕のメニューを決め、その食材も近くのヨークマートで値段と相談して品選びをしました。レジでの会計もすべて真剣になってやっていました。十六人とも、全く例外なく全員が自主的、積極的に調理や片付けに励んでいました。一人として遊んでいる子もなく、四人一組のグループが本当に仲良く、協力して、創意工夫をこらし、楽しみながら作業していました。

《もらい湯の体験》

公民館にはお風呂がないので、近くの家庭にもらい湯をお願いして、十五世帯に快く引き受けていただきました。子どもたちにとって初めておじやました家でお風呂に入ったり、お話をしたりしたことが新鮮な体験になったようです。お年寄りのご家庭も多く、お孫さんのように大事にかわいがっていただいたようです。地域の方との楽しい交流として得難い体験でした。



うどん作り

《地域との交流》

体育協会の方々には、フランク生まれの軽スポーツのペタンクを教えていただき、楽しく交流しました。また、公民館のサークルである鶴亀会の方々とはうどん作りを通して交流を深め

＊プログラム＊

	7月5日(水) 1日目	7月6日(木) 2日目	7月7日(金) 3日目	7月8日(土) 4日目
5:45		起床・洗面	起床・洗面	起床・洗面
6:00		朝食準備	朝食準備	朝食準備
6:40		朝食	朝食	朝食
7:15		登校準備	登校準備	帰宅準備
7:30				
8:00		登校	登校	洗濯(8:00~8:30)
9:00	学校生活			総集交流(8:00~12:00) (昼食会)
12:00				洗濯(12:00~12:30)
16:00 (16:15)	下校(15:10)(公民館集合)	下校・清掃	下校・清掃	
16:30	既読式オリエンテーション(16:00~)	夕食準備(16:30~18:00)	夕食準備(16:30~18:30)	
17:00	夕食準備(16:30~18:00)			
17:15	【鼎小PTA】	【二区子ども会育成会】	【食改久保稲荷支部】	
17:30				
18:00	夕食(18:00~19:30)	夕食(18:00~19:00)		
18:30			夕食(18:30~19:30)	
19:00		地域交流(19:00~19:50)		
19:30		(豊岡体操)		
20:00	入浴(20:00~21:00)	入浴(20:00~21:00)	入浴(20:00~21:00)	
21:00				
21:30	消灯・就寝	消灯・就寝	消灯・就寝	

感想・今後

終了後のアンケートを見ると、

ました。その他に食事作りや生活指導でもボランティアの方々にお世話になりました。



ペタンク

「参加してよかった。」という感想がほとんどで、「親の大変さがわかった。」などもありました。また、保護者からは「子どもがいないとやはり寂しい。」「家の中が静まりかえってしまつた。」などの感想が多く、家族を見直す機会にもなつたようです。この経験やここで感じた思いを大切に、大きく成長してもらいたいと思います。また来年度も実施しますので、子どもたちやボランティアで協力いただける方、ぜひ参加してみてください。

共に学び 共に育つ 元気なぶしっ子

仏子小学校長 澤田 清志

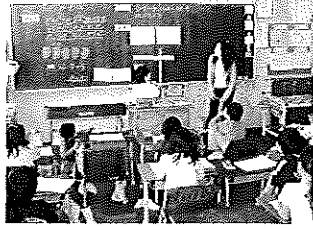
本校は、今年で開校二十六年目を迎える児童数四百六十三名、学級数十四の中規模校です。

入間川や加治丘陵の自然に囲まれ、子どもたちは落ち着いた環境の中でのびのびと学校生活を送っています。

児童一人一人の個性に応じた算数教育

本校では、児童一人一人に確かな学力の定着を目指し、算数科の研究を進めています。

第一に、自力解決できる力を育てることを大切にしています。子どもたちの実態に合わ



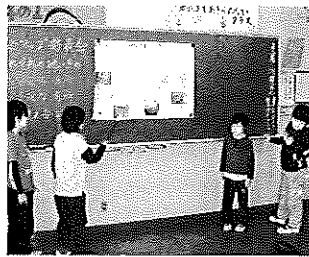
1年授業の様子

学校・家庭・地域が一体となった安全指導

登下校の安全を確保

習熟度別編成によるコース別学習は、「自分で学習コースが選択できる」「既習事項が未定着でも前学習内容に遡って復習できる」「発展的な問題にも挑戦できる」など、子どもたちにも浸透し、基礎的・基本的な学習内容の定着が確実に図られています。

するため、県委嘱のスクールガードリーダーを中心に自治会や後援会のボランティアの皆様による登下校指導が行われています。特に下校時刻が変更になったときなどに安心して下校ができ感謝しています。



安全マップ発表会

PTA講演会では、犯罪心理の実態を学びました。また、本校を会場にした市教委による安全マップ作成研修会には、自治会役員さんや民生児童委員さん等にもご参加いただき犯罪を未然に防ぐための地域づくりを学びました。

また、四年生児童が地域を回り安全マップの作成を通し、身近な安全・危険箇所の学習を行いました。

学ぶ笑顔あふれる藤北っ子

藤沢北小学校長 中川 憲道

本校は、開校二十八年度の学校で、安川通りから少し住宅街に入ったところにあります。

本年度の方針「来がい・居がい・学びがいのある学校づくり」のもと保護者、地域の方々の協力を得ながら全職員で教育活動に取り組んでいます。

認め、学び合う学級づくりを基盤とした教育活動

本校では、「自分の思いや考えを生き生きと表現できる子の育成を目指して」をテーマとして、二年間、学校研究に取り組んできました。この研究は、自分の思いや考えを生き生きと伝え合える子どもたちを育てたいということから始まりました。「表現したい」という思いの基盤は、自分の存在が認められる学級の存在です。



目を輝かせる子どもたち

陶芸体験を通じた人間教育

本校では、六年生の学習として四年前から入間市在住で陶芸家として活躍されている榮一男先生を招いて、陶芸を通しての人間教育



陶芸体験

に取り組んでいます。これは、「本物」と出会う体験活動を通し、子どもたちに自分の生き方について考える力をつけるというねらいに基づくものです。二期には、「生きる」と題した榮先生のお話を聞き、生きることの重みについて学びました。十一月から陶芸活動に取り組み、完成した作品は、文化創造アトリエ「アミーゴ」で展示しました。学習を通して、自らの生き方について考える態度が育まれています。

紹介
こちらです

- ★ 前中学校
- ★ 藤沢北小学校
- ★ 向原中学校

活力があり、信頼される学校を目指して

向原中学校長 町田 和美

本校は、今年開校三十年を迎える市内で六番目に開校した中学校です。かつて千人を超えた生徒数も、学校が分離したり、生徒数が減少したりして現在は、六百人程ですが、それでも市内で一番大きな中学校となっています。学校教育目標は、「自ら学ぶ生徒」「心豊かな生徒」「たくましく健康な生徒」です。教職員は、「セイフ（安全・安心）」「ソフト（親身）」「スピーディ（行動）」を合い言葉に、教育活動に日々邁進しています。

軌道に乗ったポランテア活動

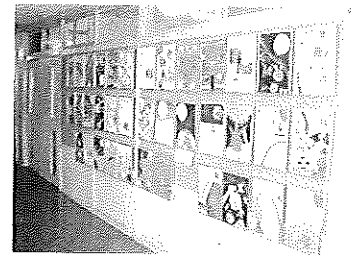
生徒会を中心に、ポランテア活動が年間を通して実施されています。「通学路清掃」は、毎学期行われ、通学路を中心にゴミや空き缶



杏樹苑訪問の様子

ポランテア活動は、自発的に行うものであり、生徒の自立につながるとともに、豊かな心を育んでいくものと考えています。

など多数回収され、地域の方々からも感謝されています。また、昨年「アルミ缶回収」も行われ、地域の福祉施設に引き取っていただいています。また、地域の特別養護老人ホーム「杏樹苑」の、運動会や夏祭り、清掃作業などには多数の生徒が教師と共に参加しています。



「一人一額」

伝統ある

「二人二額」の継続

特色ある教育活動の一つとして、「一人一額」を継続しています。開校時の美術教諭、黒田幹太郎先生の発案によって始められました。「二人一人を大切に、情報豊かな学校づくりを目指す」を目標としています。

当初は、美術の作品を掲示していました。現在では国語の硬筆や総合的な学習の時間に取り組んだ体験学習の発表、進路学習のまとめなど、幅広く生徒同士の視覚的なコミュニケーションの場としても活用しています。

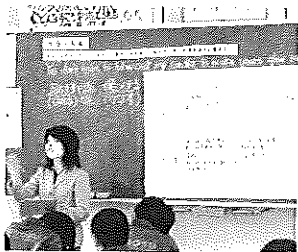
学校・家庭・地域が一体となって次代を担う人間を育成する学校

黒須中学校長 轟木 昭憲

本校は、緑の木立と悠々と流れる入間川を背に、大変静かな、恵まれた環境の中にあります。「自ら学び考え行動する、主体的な生徒（知）」「思いやりのある、礼儀正しい生徒（徳）」「心身ともに健康で、たくましい生徒（体）」を学校教育目標に、「人間性豊かな生徒の育成」に取り組んでいます。

よりよく生きる力の育成

今年度より、ライオンズクラブの支援により、ライフスキル学習に取り組んでいます。



ライフスキル学習



CAPプログラム

豊かな心の育成を目指す学校行事

体育祭の各クラスの競技に取り組む団結力には目を見張るものがあります。部活動行進や生徒会主催のダンスも盛り上がる一場面です。

さらに、合唱祭のクラス練習が始まると学校全体が盛り上がります。当日は、市民会館の隅々まで美しい歌声が響き渡り、聴衆は大きな感動に包まれます。

開かれた学校づくり

各学期に一回土曜参観を実施し、地域・保護者の方々に授業を公開しています。土曜日ということもあり、多数の方々が見えなくなってきました。さらに、学区内の自治会長の授業参観、懇話会や学期に一回の保護者と校長との茶話会を設けています。学校を家庭・地域に知っていただくよい機会となっています。

以上、学校教育の一端を紹介しましたが、常に学校は、家庭や地域とともにあるという視点で、さらに信頼される学校づくりを進めていきたいと考えています。

なめらかな学びの接続を目指して

（入間市幼年教育連絡協議会）

入間市では就学前教育（幼稚園・保育所・保育園等）と小学校低学年教育のなめらかな接続を目指して「入間市幼年教育連絡協議会」が設置されています。

昭和五十一年二月三日から始まり、今年で三十一年目になります。この会は入間市内の各小学校・幼稚園・保育所（園）の関係者が構成され、四十七の施設が加盟しています。

主な活動としては、年間三回の公開保育（授業）、子育て講演会（一般市民にも募集）と会報「手をつなぐ」の発行などがあります。

今回は、その中の「公開保育」と「子育て講演会」を紹介しましょう。

【十月十九日（木）「いるま幼稚園」で公開保育・研究協議会】

この日の参加者は、四十七名で、主な学習として、三歳児では朝のお集まり・ゲーム「かざあそび」「バスごっこ」、四歳児では朝のお集まり・体操教室「鉄棒」・制作「みの虫」「てぶくろ」、五歳児では朝のお集ま

りの、「言葉遊び」「折り紙のみの虫」「折り紙のドングリ」「文字と数」などが公開されました。この後の研究協議では、テーマを「基本的な生活習慣を身につけるには」とし、意見交換をしました。「よい環境の中で生活している。掲示物に子どもが参加し、子どもを大事にしている。学習の規律がしっかりしている。子どもの力をもっと信じてよいと感じた」などの感想が出ました。

【十一月二十四日（金）「子育て講演会」（産文センター）】
今年度は講師に早稲田大学教授の前橋明先生をお迎えし、「生き生きとした子どもたちを育てるために」―幼少年期の発達と生活課題は何か―と題し、ご講演をいただきました。約三百三十名の参加者がありました。前橋先生は、この講演の中で、最近の子どもたちは生活のリズムが崩れ、大人の生活時間帯になつてしまったことを指摘されています。中でも十分な睡眠時間を確保すること、一日

連携の充実を目指して



生活習慣と不登校

もを育てる。

不登校に限らず、子どもたちの心と身体の問題は、多くの場合、乳幼児期からの生活習慣が根幹にあると言われています。しかし、日本の子どもたちは世界一寝る時間が遅く、世界一テレビやゲームに接する時間が長いのだそうです。

これでは、子どもたちの心も身体も健全に育つはずがないと心配になります。今からでも、家庭と地域社会、学校が一体となつて、子どもたちの生活習慣を立て直すことが大切ではないでしょうか。そうすることが不登校を改善したり、予防することにつながるはずですよ。

ここではすぐにでも取り組めることとして「生活習慣五つのポイント」を紹介します。

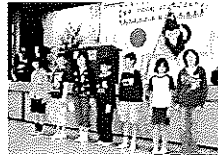
- ①毎朝、朝ご飯を食べさせる。
朝ご飯でエネルギーを注入すると脳も身体も活性化します。不登校に限らず子どもたちの心と朝ご飯は「やる気」の源です。
 - ②早寝早起きの習慣をつける。
特に朝日を浴びると、脳内物質（セロトニンなど）が活性化し、体内時計を整えてくれます。
 - ③「おはよう」、「ありがとう」、「ごめんなさい」の言える子どもを育てる。
社会生活の基本は挨拶から。日頃から子どもたちにお互いの思いを通じ合わせる「呼応」の心を育てることが大切です。
 - ④昼間はたっぷり運動、テレビやゲームの時間を決める。
運動不足は肥満や生活習慣病の要因となるだけでなく、イライラや攻撃性・衝動性を強めます。過度のテレビやゲームも同様です。
 - ⑤学習の大切さを教え、家庭学習を習慣化させる。
毎日学習することで充実感を得られるようになります。さらなるやる気を喚起します。子どもに学習の大切さを教えるためには、家庭学習をさせ、その姿を誉めてやるが一番です。
- 大人の生活形態が多様になり、その結果、子どもたちには不適切で異常なことが、当たり前のようになつてきています。不登校に限らず子どもたちの身体バランスが崩れてしまわないように、生活習慣をしっかりと身につけさせておきたいものです。そのためには、学校と家庭・地域が一体となつて取り組むことが大切です。

学校自慢

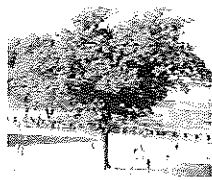
百周年を迎えた金子小学校

金子小学校

金子小学校は、今年度で百周年を迎えました。十一月十二日に百周年の記念式典を行いました。歴代のPTA会長さん、地域の皆様や校長先生、その他の先生方などたくさんの方がお祝いにいらしてくださいました。



私たちは、皆さんの前で総合学習で勉強した「金子の百年」をテーマに「金子の神社」「学校の歴史」「仕事の移り変わり」の三つをパワーポイントを使って発表しました。当日はとても緊張しましたが、「とてもよかったです。」と皆さんにほめてもらい、うれしかったです。



域の方々には、金子小のシンボル、ケヤキの木のように、いつまでも金子小学校の子どもたちのことを、見守っていてほしいと思います。(六年 高山 祐樹)

自然の中で楽しく勉強を

藤沢南小学校

南小には生き物や自然を大切にすするやさしい子がいっぱいいます。それは、学年ごとにいろいろな植物を育てているからだと思います。

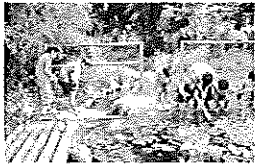


一年生はさつまいも、二年生はミニトマト、三年生は落花生、四年生はヘチマやひょうたん、五年生は稲と色々な野菜、六年生はどうもろこしの世話をしています。心をこめて大切に育てるのでとてもよく育ちます。

他に、花だんには、花がいつも咲いています。さくらんぼの木もあり、全員で実が食べられるくらいたくさんあります。ピオトープにはたくさんさんの生き物が見られます。春のカエルの卵は何メートルにもなり、みんなが見に来ます。

このように南小のみんなは、自然の中で楽しく勉強しています。

(六年 坂本 沙織)



最高級のみそ作りをめざして

狭山小学校

本校では、毎年五年生が自分たちで栽培した米と大豆を使ってみそを作っています。

日本の優れた食品であるみそは、米と大豆を組み合わせて作られています。今年の五年生は最高級のみそ作りを目標に、みそのラベル作りから学習をスタートさせました。次に、米麴を作るための米作りを校庭の隅にある田んぼで始めました。また、九月には畑に種をまき、大豆の栽培も始めました。この間、地域の農家の方に助けていただきながら、十一月には稲刈りも終わり、大豆も収穫しました。大豆は、なんとまい種の二十倍の、約三十キログラムも収穫することができました。



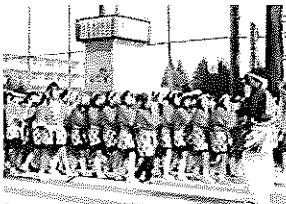
二月には、この米と大豆で、手作りのみそを仕込む作業をします。そして、六年生になった秋の、本校のふるさと祭りに、地域の人に販売する予定です。

「豊岡中万燈御輿」の完成

豊岡中学校



豊岡中学校の「学校自慢」は「豊岡中万燈御輿」です。御輿づくりの計画は、歴代のPTA会長の長さんたちの「豊中にも是非御輿を」という願いから始まりました。毎年万燈まつりや、全校で取り組んだ資源回収の収益金、今年度の卒業記念品代によって完成したものです。



その御輿を二年生が、総合的な学習の時間のまとめとして、万燈まつりで担ぎました。僕はリーダーとして参加しましたが、途中で多くの声援をいただき、改めて地域の一員であることを実感しました。

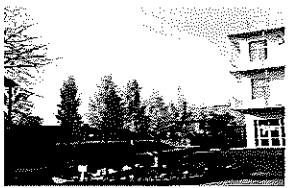
豊中に関わる方々の願いや期待が込められたこの御輿を、学校の誇りとして、来年も後輩たちに担いで欲しいと思います。

(二年 松原 遼太)

武蔵中学校の特色

武蔵中学校

私が通っている武蔵中学校は自然に囲まれています。春には、校庭が桜で埋めつくされます。秋になると、銀杏の木がきれいに紅葉します。武蔵中学校の校庭は、一年を通して、何色にも変化します。



一人一鉢運動も武蔵中の特色の一つです。一人一鉢運動とは、自分に割り当てられた一鉢に菊の苗を植えることから始まり、花が咲く秋頃まで責任をもって育てていくという運動です。全年で行われます。夏休みも水やりに来たりします。きれいに咲いた時は、すごく嬉しいです。

校内選抜された菊は、菊の展覧会に出品されます。菊づくりを通していろいろなことが学べました。

そしてなにより武蔵中学校の一番の自慢は給食です。武蔵中学校では市内中学校唯一、自校給食を取り入れています。オリジナルメニューなどもあって自慢の給食です。

(二年 松田 彩佳)

こままわし

.....
こままわしを通して

あずま幼稚園

おもしろそうな物は、何でも遊び道具に変身させてしまう子どもたち。保育室にあった「酒ぶた」も子どもたちの手にかかると「こま」に変身。今、子どもたちは「酒ぶたまわし」に熱中しています。底にビービードンを付け、いかに長くまわせるか、また、どのように塗ったらきれいに回るか等、工夫を重ね、自分だけの「MY酒ぶた」作りに一糸懸命です。自分の酒ぶたがない子は、北は北海道、南は九州と祖父母にお願いし、送ってもらう子もいます。また近所の酒屋さんをお願いして調達してくる子もいます。

最近、核家族が増え、人と人を結びつけるコミュニケーションが減少



まわせたよ

し、祖父母との交流が少なくなりがちですが、これをきっかけに、さらなる交流を深めてほしいと思います。

二年生 地域の方との集い

藤沢東小学校

十一月十六日(金)三・五校時にかけて、生活科の授業の一環として、地域の方(主にお年



楽しいな昔の遊び

寄り五十三名)との交流を行い、相互の理解を深めました。

児童たちは昔の遊びなどを教えてもらい、地域の方と共にゲームを行いました。昔の遊びは、お手玉・紙飛行機・メンコ・割り箸・ゴムでつぼう・トランプ・将棋・オセロ・竹とんぼ・おはじきなどでした。一方、児童た

ちからは、「花笠踊り」等の学習成果の発表がありました。また、給食も一緒に食べました。児童からは「面白かった・初めて知った・今の遊びと違う」など、特に自分の手で作って遊ぶことに大きな関心を示す感想がよせられました。

参加された方からは「一緒に給食がうれしく楽しかった・子どもと一緒にいることがいいです」などの声が聞かれました。

空手で大活躍

狭山小学校

五月七日に、東松山市民体育館で行われた「埼玉県糸東会空手道選手権大会」で、本校六年生の熊木まりいさんが、五・六年女子組み手の部で優勝、そして、形の部で三位に入賞しました。また、その後に行われた「関東選手権大会」でも大活躍して、最優秀選手賞も獲得しました。



トロフィーを手にする熊木さん

ふだんの熊木さんは穏やかで、

とても格闘技をするような子には見えませんが、スポーツ万能で、体を動かすことが大好きな女の子です。休み時間には、校庭でなわとびを練習したり、走ったりしている姿がよく見られます。

熊木さんは九月十八日に日本武道館で開催された「糸東流空手道世界選手権大会」にも参加しました。この大会は実力があ

る選手のみが参加する世界大会ですが、外国の選手相手に大健闘して、見事ベスト八になりました。

生き生き黒須小祭

黒須小フェスティバル二〇〇六

十一月二十五日、みんなが楽しみにしているこの日がやってきました。

午前中は「秋だ！クロスだ！お祭りだ！」のテーマのもと、各学級で工夫したゲームコーナー・体験コーナー・劇や創作劇のビデオ等が発表されました。保護者や祖父母・地域の方々、にこにこ顔でお客さんになってくれました。

午後はPTA主催によるフェス

ティバルが華々しく繰り広げられました。大きなトラックの荷台でのステージアトラクション・体育館いっぱいのパザール・校庭には食べ物のお店がいっぱい並びました。学校で育てた三百本の大根も、小さいのも売れました。この日の子どもたちの笑顔は生き生きしていました。来年も楽しみます。



うまくつれるかな

編集後記

花便りと共に、果立ちの季節を迎えました。各校では、心のこもった卒業式に向け、諸活動が進められています。今回の教育広報では、多くの方々の支援により実施された「通学合宿」の様子を紹介しました。

ご多用のところ、執筆ご協力いただきました皆様にご心からお礼申し上げます。